

クラス道徳「捨てられた悲しみ」

あらすじ

ある犬猫の収容センターで働くこずえさんの話です。こずえさんの仕事は「動物ふれあい教室」という事業だけでなく、犬猫の食事から排泄物のそうじ、最期を見届けるまで…が仕事です。こずえさんの働くセンターに移された動物たちは最期を待つのみです。そんな動物たちの世話をこずえさんは献身的に行います。そう、残り短い、命のために。

こずえさんは、誰に言われたわけでもなく、土日も含めて、毎日朝と夕、犬と猫の世話をします。

「私がやっていることは、他の方から見たら作業を

増やすことだとはわかっています。それでも……。」

今では、このセンターでも譲渡会なども始まりました。

その犬猫を選ぶのもこずえさんの仕事です。

こずえさんは、この後、
何と言いたかったのだろう？

人の生命を愛せない者に、
自分の生命を愛せるわけがない。
(小説家 吉川英治)

人はどうしてペットを
飼うのだろうか？

飼わないことも愛情です。

捨てられた悲しみは
どこに捨てたらいいですか？



日本動物愛護協会からのお願い
ペットは、おもちゃやファッションではありません。飼わないことも愛情です。

その子を迎えて帰るその前に、もう一度☑してみてくださいね。

☐ お迎えの際はペットを飼える環境ですか？	☐ 母を亡くしたペットの世話ができますか？
☐ 家族全員、ペットを飼うことに賛成していますか？	☐ ペットの一生にかかるお金をご存知ですか？
☐ 家族にアレルギーの人はいますか？	☐ 退院に連絡をかけるようにルールを覚えることができますか？
☐ 寿命が来るその日まで、お世話をしてくれますか？	☐ 病室や手術が済んでも、一緒に連れて行けますか？
☐ ペットのお世話は365日休みなしです。その期間と体力と覚悟はありますか？	☐ 緊急時、代わりに飼ってくれる人がいますか？



公益財団法人 日本動物愛護協会

みんなの感想

- ・飼っているということは、その犬の命を飼い主が守るということを分かっていると、こんなに捨てる人はいないと思う。飼った人は、犬の命を守る第一責任者だと思うし、責任を持ってペットを飼う人が増えたら捨てる人は減ると思う。(Sくん)
- ・命の重さって平等なのに、殺処分されていく現実を目を背けたくなくなりました。それでも、こずえさんはきちんと向かい合って最後まで見送られて、心を打たれました。たとえ、それが仕事であっても、こずえさんの気持ちは優しさであふれていると思いました。(Tさん)
- ・動物を飼うのは、「一生、面倒をみる！」という覚悟で飼ってほしい。人間の一時の感情で動物を飼わないでほしいと思いました。動物にも「感情や命がある。」ということを動物を捨てた人たちに伝えたい。面倒をみられないなら、動物を飼うな。飼う資格なんてない！！(Kさん)

ペットは遊び道具ではないし、飼うならどんな事があっても一生守るという覚悟を決めて飼ってほしい。(Mさん)

- ・飼うんだったら一生面倒を見るっていう覚悟をもって飼ってほしいし、飼ってから捨てるっていう人がいたら、捨てるのだったら、最初から飼わないでほしいと思った。動物は命をもっていて、個性や感情をもった生き物だから、飼うんだったら責任と覚悟をもって飼ってほしい。(Fさん)
- ・なんで人間の勝手に、飼われたり、捨てられたり、殺されたりするのだろうと思う。私はペットショップは無くてもいいかなと思うこともある。保健所で、本当にきちんと飼うことのできる人がゆずり受けたら、軽い気持ちで飼うことは減ると思う。(Sさん)
- ・飼って可愛がったりするのも愛情やけど、捨てられてしまうなら、幸せを知っているペットは捨てられると飼われている犬猫たちよりもダメージが強いと思うから、飼わないことも愛情なんだと思う。(Uさん)
- ・愛想が尽きたとか、そんな理由でペットを手放す人は無責任すぎると思います。人々にあやつられる人生なんてペットからすれば、苦痛でしかないと思うと、ペットの気持ちを考えないような行動、ペットに自由や幸せな時間を与えない人は飼う資格なんてないと思う。(Hさん)
- ・自分が飼って、責任を放棄するよりも、終わりまで愛せる自信がある人のところに行った方が幸せになれると思う。(ペットの事を最優先に考える愛情)(Fさん)
- ・飼えなくなるなら、最初から飼うなと思う。人間の勝手な事情でなんの罪もない犬、猫が殺されるのはどうかと思う。これから殺処分ゼロにしていきたいと思った。(Iさん)
- ・「命は大切」と言いながらも他の動物を殺したり、軽くみたりしている人はきつというし、命の重さはどの動物も同じだから、軽く見るのは良くないと思いました。私たち人間だけの命が大切というわけではないし、どんな生き物も同じで命は大切だということを忘れないようにしたいです。(Oさん)

いのちの音
林 佐知子
はやし ちこ
どくん どくん どくん
心臓が鼓動してる
これが いのちの音
おかあさんの
おなかの中にいたときから
死ぬそのときまで
一日の休みもなく
ひとつつきり いのちを
一回きりの 生を
刻み込んでいる
この星に生まれた
すべての人は

